

広告特集



山口大学医学部 泌尿器科 准教授
白石 晃司氏
(しらいし・こうじ) 日本泌尿器科学会専
医・指導医、日本生殖医学会生殖医療
門医、日本性機能学会専門医など所属
会多数。

可能な泌尿器科のドクターとタイアップしてくことも大事でしよう。体外受精や顕微鏡授精などの不妊症の治療は健康保険が適用されませんが、自治体などの助成金制度もあります。

りを持ち、後悔しないようにしていただきたいですね。私たち専門医も最適・最善の医療を提供できるように、力をサポートしていくたいと思います。

35歳未満で1年以上妊娠しない、35歳以上であれば6カ月以上妊娠しない場合です。40歳以上の方や生理不順、婦人科疾歴のある方などは年齢にかかわらず早期の受診をおすすめします。不妊治療の専門クリニックでは、その方に必要な検査を系統立てて行い、原因を調べ、原因に基づいて治療していきます。一般的には、最も妊娠しやすい時期に性交を持つ「タイミング法」から始め、「人工授精」、「体外受精」と治療

**1年以上妊娠しない場合は
一度、夫婦で検査を**

研究も進められています。

その一 原因

二〇四

金匱要略

蔵本 不妊とは、妊娠生殖可能年齢の健康な甲

不妊症の原因は男女年齢と大きく関係す

と山口大學園学部演習
由石晃司氏にお聞きしま

わが国では5・5組に1組の夫婦が不妊症といわれています。近年、妊娠を望む方の年齢は上昇していますが、妊娠率は年齢に反比例しています。そこで、不妊症の原因や治療法などについて、藏本ウイメンズクリニック院長の藏本武志氏

白石 不妊の原因は男女でほぼ同率ですが、男性側にその自覚が少ないので現状です。

状態をいいます（日本産科婦人科学会定義）。2015年の調査では、夫婦の5・5組に1組が不妊症というデータが出ています。

原因不明です。最も多いのは陰嚢(いんのう)の血管が腫れる精索静脈瘤で、不妊の中でも、精子自体は作られているものの精子の通る管が詰まっている閉塞性無精症は、精索静脈瘤と共に手術すれば治る男性不妊症の代名詞です。

『不妊症』に悩む夫婦の皆様へ

